

(解説)簡単・早わかりBCP策定シートは、「何から手をつけて良いのか…」とお悩みの皆様に、事業継続のエッセンスをお伝えし、取り組みの第一歩を後押しする意図で作成しました。

1. 基本方針

大地震発生時には、以下の基本方針に則り対応する。

1	社員(役員・従業員)の人命を守る
2	
3	

2. 対応責任者

統括責任者	全社的な意思決定を行い、対応全体を統括する。 (代行者①、代行者②)	事業継続担当	重要業務の継続に関する業務を指揮する。 (代行者)
本社機能維持担当	安否確認や安全確保等、本社機能の維持に関する実務を指揮する。 (代行者)	重要業務	
		目標復旧時間	

3. 被害想定

社会インフラの中断(電力・通信:3日間、交通・その他:2週間)、半壊、

想定地震、想定震度

※旧耐震基準の建物は早急に耐震化を進めましょう。新耐震基準の建物でも壊れて使えなくなることを想定しましょう。

※自治体の地震被害想定をホームページ等で調べて記載してみましょう。

4. 対応手順

※対策本部を立ち上げ、以下の手順で対応を実施します。

(1)大地震発生直後(目安:直後~可能な限り速やかに)

①避難

基準	
避難場所	

②救助・負傷者対応

救助・応急処置 道具の所在	
救急搬送先①	距離 m (TEL:)
救急搬送先②	距離 m (TEL:)

③安否確認

基準	
対象者	(総計 人(年 月現在))
集計担当者	
確認方法①	社内にいる役員・従業員の状況を職場ごとに確認させる。
確認方法②	
確認方法③	

(2)初動対応フェーズ(目安:直後~24時間以内)

①状況確認 ※財務や供給の担当を追加して事業継続体制に移行します。

確認対象	担当者(部門)
役員・従業員	家族を含めた安否
建物・設備	ITを含む状況
その他事業資源	在庫・原材料の状況
顧客	状況 ※「顧客リスト」参照
取引先	状況 ※「取引先等リスト」参照
社会インフラ	電力・通信・交通等の状況
その他	
その他	

②帰宅許可

基準	帰宅までのルートが確認されており、
対象者	
留意点	・帰宅時に水・食料を持たせる ・帰宅後、安否状況を報告させる

③備蓄品の状況 ※飲料水(一人1日3リットル)と食料は最低3日分、できれば7日分を準備します。

品名	数量	品名	数量	品名	数量
ヘルメット	個	救助用工具	セット	トレットペーパー	個
飲料水※	リットル	簡易トイレ	回分	ガムテープ	個
食料※	食	携帯ラジオ	台		
毛布	枚	懐中電灯	台		
救急箱	箱	乾電池	本		



(3)事業継続フェーズ

①重要業務の継続

対応戦略	
資源の脆弱性 (ボトルネック)	
対応手順	

②資金調達

必要な資金(発災後3ヵ月の想定)		調達可能な資金(発災後3ヵ月の想定)	
概要	金額	概要	金額
(A) 経営維持費用	従業員への給与の支払い	(C) 利用可能な手元資金(現在の現預金)	万円
	買掛金の支払い	(D) 回収可能な売掛金	万円
	金融機関からの借入金の返済	(E)	万円
	その他	(F)	万円
(B) 災害復旧費	被災建物・設備の復旧	(G)	万円
	その他	(H)	万円
必要な資金の合計		調達可能な資金の合計	
	万円		万円

5. 事前準備

(1)	チェック	(できていない場合)
救助・応急処置道具の整備		までに対応する
従業員の家計地震保険加入推進		までに対応する
		までに対応する
		までに対応する

(2)	チェック	(できていない場合)
「顧客リスト」の整備		までに対応する
「取引先等リスト」の整備		までに対応する
備蓄品の整備		までに対応する
		までに対応する

(3)	チェック	(できていない場合)
		までに対応する
		までに対応する
		までに対応する
		までに対応する

【重要】事業継続とは、事業を停止させてはいけないということではなく、重要業務を許容時間内で復旧させることです。

大地震発生時にお客様・社員を守るため、以下の「防災リスクチェック」を事前に実施することが望めます。
「できていない」に該当する項目については、対応方針を策定し、対応期限までに実施しましょう。

カテゴリー	確認項目	できている	できていない	対応方針	対応期限
建 物	自社建物の建築年、適用されている耐震基準を把握している <small>※～1981年5月：旧耐震基準、1981年6月～：新耐震基準</small>				までに対応する
	旧耐震基準の場合、耐震補強工事を実施している				までに対応する
天 井	吊り天井ではない				までに対応する
	天井から吊っている掲示物は、落下しないよう2箇所以上の止め具で固定されている				までに対応する
壁	壁の掲示物（絵画等）は、落下しないよう2箇所以上の止め具でしっかり固定されている				までに対応する
窓ガラス	窓ガラスには、強化ガラスや合わせガラスを使っている <small>※割れて飛散する破片を最小限にするため</small>				までに対応する
フロア	什器・備品が揺れのために倒れたり、落ちたりしないように固定されている				までに対応する
非常口	非常口の方向を示す表示の視認性が確保されている（掲示物で隠れていない）				までに対応する
	非常口には「回す」「押す」などの開け方がわかりやすく表示されている				までに対応する
	非常口の周辺に、パニック発生時に衝突して崩れるような障害物はない				までに対応する
	閉じ込められることを想定して、内側から開けられるバールを準備している				までに対応する
設 備	消防用設備等※が適切に設置されており、社員全員が場所・使い方を把握している <small>※消火設備（消火器、屋内消火栓等）、警報設備（自動火災報知機等）、避難設備（避難器具、誘導灯等）等が消防法の規定通りに設置されていることを確認する</small>				までに対応する
避 難	災害時の避難マニュアルを策定し、定期的に避難訓練を実施している				までに対応する
	【お客様が自社建物内にいる場合】 お客様を避難誘導する際の役割分担をしている（避難誘導・応急救護など）				までに対応する
	【津波の危険がある場所の場合】 高台の避難場所・避難経路を社員全員が把握している				までに対応する
	通路には物品を放置せず、すれ違うことができる幅が十分確保されている				までに対応する
	避難時には火元を確認し、ブレーカーを落としてから避難することを社員に周知している				までに対応する



入力用ファイルのダウンロードはこちらから

http://www.tokiorisk.co.jp/risk_info/up_file/bcp.basic2016.pdf